

《福井市の公民館に思う》



福井市の公民館の益々の充実発展を！

前福井市中央公民館長

川 端 喜 彦

私は長く教職についていましたが、文部科学省が「全国学力・学習状況調査」を始めたところ、本県が連続して全国トップクラスの成績を示し、全国各地から学校へ視察に来られるようになりました。また、私の勤務校（明道中学校）へは茨城県から派遣された先生が1年間、研修に来ていました。

視察に来られた方々は、「学力向上の秘訣は何ですか」「具体的な取組を教えてください」と矢継ぎ早に質問されます。しかし、この学力調査のために特別に取り組んだこともなく、「学校として当たり前のことを当たり前に取り組んでいます」と答えていました。そして、授業参観をしていただき校長室へ戻って来ると、みなさん一様に「授業が違う」「先生と生徒が一体となり授業に集中している」「掃除が行き届き校舎がきれい」「あいさつが素晴らしい」等々と言われました。そして質疑応答の中で、これまで私たちが当たり前として取り組んできたことが、他県から見ると真似のできない特別なことであるということが分かってきました。そこで、当たり前に思っていたことをしっかり見直し、その教育的価値をしっかりと自覚し大事にしていくことの大切さを痛感しました。

公民館へ勤務させていただくようになって、地区公民館訪問及び行事参加、県内外の公民館視察、県外からの視察対応を通して学校教育で感じたことと同じことをより強く感じました。これには第2号佐藤藤枝氏、第3号坂上泰学氏の言葉にもありますように、先輩の皆さん方の大変なご努力があつてのことと思っています。半官半民の体制を維持し地域社会に密着し、社会教育・生涯学習の拠点として果たしてきた役割及び成果は計り知れないものがあると思います。公民館の運営審議会の皆さんは公民館運営の審議にとどまらず、各団体を代表してお互い連携協力し、各種行事に取り組むことで大きな成果をあげてきました。そのことにより、今日まで公民館が地域社会の中核としての機能を持続できたものと思っています。

国立教育政策研究所では、地域とともにある学校推進政策作成の一環として本市（光陽中学校区）へ視察に来て、その報告書（平成27年3月）の中で、「1小学校区に1公民館が配置されている。公民館は各種団体が集まって運営審議会を作り運営されているため、公民館に話を通すと連携がしやすいという状況がある。公民館でのボランティア活動を行うようになってから、生徒の社会性や自己有用感、自尊感情の育成につながり、また、地域への愛着も深まってきている。」など現在の公民館と学校が連携協力した取組を高く評価しています。

また、放送大学の広報誌を届けに市内全部の公民館を回った職員の方が、「福井市の公民館の主事さんはすごい。意識が違う。勤務する公民館と地域に誇りを持ち仕事に取り組んでいる」と感想を言いに駆けつけてくれました。

「はやはやみつけ隊」（NHK）、「公民館のお宝拝見」（福井新聞）などを通して、公民館が地域社会の文化、社会教育・生涯学習の中核施設としての役割を十分に発揮してきたことを実感しています。

社会教育・生涯学習は変動の時を迎えていますが、「不易と流行」福井市の公民館で当たり前に取り組んでいるものには、他では一朝一夕には真似のできない素晴らしいものがたくさんあります。時代の流れで変革の必要なものもありますが、福井市の公民館が当たり前にしてきたことを広い視野からとらえ直し、しっかりその価値を自覚し大事にしていくことこそが福井市の公民館の益々の充実・発展に繋がるものと強く思っています。皆様方の益々のご活躍をお祈りいたします。